

【R6主任介護支援専門員更新研修】演習の進め方・ポイント（240分ver.）

時間 (分)	項目	内容	ポイント・役割
5	演習説明	演習の流れ・スケジュールの確認	
25	演習1 自己事例の振り返り	自己点検シートの振り返り及びグループ間での共有 5分:個人ワーク 20分:グループワーク	<p>●司会者 本日の役割分担の確認。1人3分程度で各自の発表を進める</p> <p>●参加者 自己点検シートを使って指導事例もしくは自己事例を振り返ったケースを1人3分程度で発表する。事例検討(問題解決)の視点ではなく、「スーパービジョン」(事例研究)の視点で各参加者の自己の振り返りを行います</p> <p>●事例発表者 最後に発表する</p>
5	演習説明	グループスーパービジョンの概説	<p>*グループスーパービジョンのイントロダクションの時間でもあります。現場では「事例検討会」の経験が多いと思いますが、主任更新は「スーパービジョン(事例研究)」の研修です。 主な視点は ①担当する介護支援専門員自身がどのような思いで事例に向き合っているか ②事例の背景で何が起きているかを考える練習の時間です。</p>
25	演習2 事例発表	事例研究・事例発表 事例発表の内容・順番 ①様式1「事例のタイトル」 ②様式3「事例概要」(簡潔に3分以内) ③様式4「プロセスレコード」を要点を絞ってわかりやすく発表 ④様式3「パイザーとして考えた論点」とそう考えた根拠	<p>*グループスーパービジョン(事例研究)で学ぶ内容 ●事例の中に見られる「課題解決・問題解決」の場ではない。「クライアント理解」の場である。ここにいるクライアントとは、指導を受けた介護支援専門員でもあり、事例ご本人でもある。担当する介護支援専門員が困難を感じている「課題」が何から生じているのかその背景を深めていきながら、事例の見立てや起きていることを考え、担当する(指導を受けた)介護支援専門員自身が次の行動にその思考を生かすことができるようになるための「事例研究」である。そのためには、事例検討会にならないようにグループの進め方で注意が必要。「私も同じような事例の経験がありこうすればいいですよ」「このアセスメントが不足していたのでは」「このような介入が必要では」のアドバイスや問題解決の検討にならないように司会者やスーパーバイザー役の方が適宜調整しながら(「今は事例検討の場ではないので、何が起きているのかの背景を考えましょう…」など)進めていく。</p> <p>●事例報告者 ①事例のタイトル、事例概要(簡潔に3分以内)、プロセスレコード(様式4)を要点を絞って参加者に分かりやすく報告。 他のメンバーが起きていることのイメージがしやすいように報告する。プロセスレコード(様4)を画面共有する。 事例概要より起きていることプロセスレコード(様式4)の報告が大切です。時間配分を気を付けましょう ②自分で考えた論点(ニーズの核となるもの)とそう考えた根拠を発表</p> <p>●参加者 「気づき促す質問」「事例を深める質問」を考えながら報告を聞く。事例をイメージするのに、頭の中で絵解きする。「事例報告をストーリーで聞く」練習をする。エコマップに関係線を引いてみる等も効果的。どこに「ひっかかり」を感じたかがこの後の「情報共有の質問」につながる。感性を研ぎ澄まして⇒問題解決の視点ではない。</p> <p>●司会者 発表のまとめ、発表者が考える論点の再確認をする</p>
10	休憩		

時間 (分)	項目	内容	ポイント・役割
45	演習3 情報の共有 (質疑応答)	事例のイメージを深めながら論点を検討するための情報の共有(質疑応答)を行う	<p>●参加者 自分がこの事例の担当者だった場合に、どのような情報があればいいのかを考え、論点を考えながら事例発表者の気付き(マネジメントの視点や考えなど)を促したり事例を深める質問をする。「何でこんなことが起きているのだろう…」とひっかかった視点から質問し情報共有を深めていく。浅く広く情報共有するのではなく、参加者各々の見立てから事例を深めて構造化していく時間です。事例の構造化のためには、過去・現在・未来といったライフラインでのクライアント理解もキーになる。必要に応じて適ケアで学んだ視点も取り入れてみる</p> <p>●司会者 影響力の強い人の意見に流されないような注意も必要。メンバーみんなが発言できるようにする。質問の内容が散漫しないようにする。最後に追加情報などをまとめる</p> <p>●スーパーバイザー 事例の視点や読み解くポイントを伝える</p>
45	演習4 論点の明確化	事例を深め論点を考察する(グループ内で合意した論点の抽出) 個人ワーク5分 グループワーク40分	<p>個人ワーク5分 ●論点の明確化のポイント ①本人の立場から本人理解を進める。(・これまで生きてきた人生・人生観・生き方・生きざま・価値観・今の生活世界・感情) ②担当した介護支援専門員の・思考・経験・価値観・生活史・環境・関係性等 ③場当たりの議論するのではなく、どこに焦点を当てると本人理解や指導を受けた介護支援専門員の理解につながるかを考えながら、系統立てながら論点(ニーズの核となるもの)を明確化していきます。 ★論点の明確化がグループスーパービジョン(事例研究)の本質的なテーマともいえる。</p> <p>●司会 論点(事例を深める中で検討すべき論点:事例のニーズの核になるものに気づく)を考える 影響力の強い人の意見に流されないような注意も必要。メンバーみんなが発言できるようにする。 論点がグループで合意されたものかを確認。</p> <p>●スーパーバイザー それぞれに出た論点からみんなが合意した論点を抽出できるようにアドバイスしながらまとめる</p>
10	休憩		
25	演習5 論点の検討	事例の今後の方向性と指導の在り方についての検討	<p>●「論点の明確化」《事例のいろいろな情報をもつ意味を対人援助の価値(理論とすり合わせながら考えていく過程)とすり合わせながら本人理解につながっていく作業》を経て、「論点の検討」に入っていく。グループで事例を深めることができると、今後の事例や介護支援専門員へのアプローチという出口につながっていく。この時間は、明確化された論点から事例の今後の方向性と指導のありかたについての検討をする 必要に応じて適ケアで学んだ視点も取り入れてみる</p> <p>●事例発表者：最後に感想を述べる</p>
15	演習6 地域課題を含めた課題解決に向けての方法等の検討	共通課題・地域課題などと指導の在り方について検討	<p>●当該科目の共通課題・地域課題、自分自身の課題と取り組みべきことの検討 ●適ケアを活用した指導のありかたなどの検討</p>
30	まとめ及び講義(メイン講師)	会場から1グループ発表し、スーパーバイズのポイントを解説	1グループ発表する①事例概要②事例提供者の考えた論点③論点の明確化の過程のまとめ④グループで合意した論点⑤事例の今後の方向性と指導の在り方⑥共通課題・地域課題・自身の課題とその解決策や取り組みごと

※時間配分は進行により変更する場合があります。講師の指示に従ってください。